



片浜北公園へ花見外出 (ブレーゲあしたか小規模多機能)

「はるかぜ philosophy (フィロソフィ)」
〜恩師からの学び〜

沼津市立高尾園 施設長

川口 浩史

「介護は机上にない。現場での実践が全て。お年寄りから学べ。」

本年三月にご逝去された元あしたかホーム顧問小野十一様のお言葉です。介護の「か」の字も福祉の「ふ」の字も知らず、ボランティアから介護職員として雇用していただいた私にとって、法人の園訓と小野顧問のお言葉は、自身の進むべき方向を指し示してくれる唯一の教えでした。

いつも厳しく、時々優しく冗談交じりに話してくださいましたお話は、どれも介護に対する情熱や信念を感じ取られるものばかりでした。

「お年寄りの体調は変わりやすい。常に枕頭に立ち、自らの手で触れて感じていかなければ状態把握はできない。目配り、気配り、心配り。」常に現場でお年寄りと触れ合うことの重要性や高齢者の特徴、また色々な視点をもって配慮することの必要性も併せて教えてくださいました。

「率先垂範。上に立つ者は常に真っ先に現場に急行し、他の職員の模範とならなければならぬ。」管理職を任命する前から、顧問は私に何度も話してくださいました。「リーダーシップを発揮する為には職員の信頼を得なくてはならない。それには自らが率先して職務を遂行し、他の手本となるべ

し。」と自分なりに解釈し、処理しなくてはならない書類にまみれながら時間を見つけてはお年寄りに関り、無我夢中に仕事をしていた頃が、今では懐かしく思い出されます。

こうして指導を受けながら、利用者様や職員の皆様からも色々なことを教えていただきながら仕事を続けさせていただいた私も、勤続二十三年が過ぎようとしています。改めて冒頭の小野顧問のお言葉を自分なりに言い換えてみると：

「介護は人対人の営みであり、人は千差万別。教科書に書いてあるような一つの手段で足りるはずはない。現場でお年寄りと実際に触れあい、関わってこそ、その人に必要な支援を見極め、感謝の念をもってその人の余生を支えることができる。そしてその蓄積が、自身の知識や技術となり、支援者として、また人としての成長につながっていくのだ。」

私が入社した頃とは、社会情勢も福祉制度も、ケアの方法も変わっていますが、小野顧問の言葉は介護に携わる全ての人にとって、これからも心に持ち続けるべきものであると、改めて感じています。

小野顧問のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

第26回

社会福祉法人 春風会

合同職員研究発表会



令和五年五月十八日(木)
沼津プラサヴェルデにおい
て第二十六回法人合同職員
研究発表会が開催されまし
た。今年もコロナウイルス
感染拡大防止を考慮し、参
加者を副主任以上の役職者
に限定して行いました。

はじめに石川理事長が、

「コロナ禍の三年間で何を学び、
何を教訓としてきたか検証が必要、
高齢者介護施設は感染による重症

化や死亡リスクが高く人の生命に
直接関わる仕事であると改めてこ
の感染症に学んだ。コロナ禍でも
研究発表会を継続してきたが、
日々の実践の研究活動の積み重ね
で介護福祉や社会福祉という学問
が向上し福祉職としての専門性を
高め介護福祉士や社会福祉士の地
位向上にもつながる。社会の変化
に対し私達も流動的な対処が必要
と挨拶されました。

特別表彰・永年勤続表彰に続け
て、各施設職員による九題の研究
成果が発表され、今回は優秀賞三
題が選ばれました。その優秀賞三
題を紹介させていただきます。



「ホームヘルプサービス
ICT化」
「シズケアかけはしの活用」
ぬくもりの里ホームヘルプサービス

医療リスクのある方の訪問はい
つも不安でした。コロナ禍になり
訪問介護の現場もICT化が進み
ZOOMでの担当者会議を行うこ
ともありました。ICT化の中の
ひとつ、「シズケアかけはし」と
いうツールを使うことになりました。

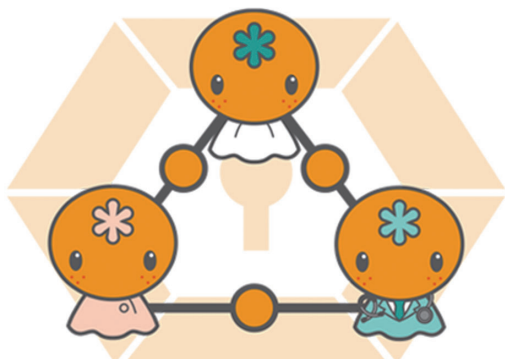
シズケアかけはし
↓
チームで
情報を共有!



【「シズケアかけはし」とは、医療・
介護サービスの利用者や地域生活
に見守りの必要な方に関する情報
を多職種・多機関のチームで共有
するシステムです。特に医師との
連携は今までケアマネジャーを通
して情報を得たり、意見を聞いて
もらったりしていましたが、シズ
ケアかけはしを導入することによ

りヘルパーの質問したことに返事
をもらえ支援に繋がっています。
ヘルパーは情報の共有が大切な
ので、iPadやポケット
WiFiを一人一台導入してい
ます。

今後の課題はヘルパーの高齢化
シズケアかけはしの利用拡大だ
だと思います。年齢が高いヘルパー
でも、ICT技術は扱いやすかつ
たです。連携ツール【シズケアか
けはし】は現在、伊豆の国市では
一部の病院のみ利用していますが、
様々医師が使うことで効果が上が
り、また、ぬくもりの里訪問介護
が参加しているという認知度を上
げる事で利用拡大に繋がると思わ
れます。



夢中になって遊ぶ子
「言葉が仲立ちになって」
なかいず認定こども園

なかいず認定こども園が職員研修で最も力を入れたのは、育つ力を意識した遊びの環境作り、子ども一人ひとりの個性に応じた保育の充実、保育者間の連携と活発な情報交換です。自分の保育を他の保育者に参観してもらう園内公開保育を行い、子ども達の意欲につながる適切な関わり方や育っている力について話し合いました。子どもの思いを尊重し、より充実した遊びを展開するためにマインドマップを使って育つ力と不足している力の関係を調べると今までとは違う活動に発展することが分かりました。さらに、個に寄り添う保育では、クラス活動に参加が難しい子に対しての援助の仕方を一緒に考え、担任の悩みを共有する機会を日常的に設けました。すると、若手の保育に対する情熱が高まったり、チームで保育をしていく安心感が繋がったりしました。

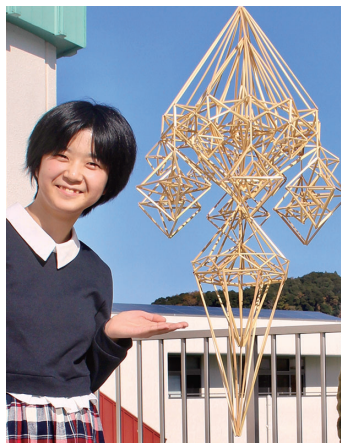


また、伊豆総合高校で保育士を目指す高校生に出張授業を行ったときは、本園が選ばれる職場と映っているかをアンケートで調べました。大変好評で次世代の保育者にも認められる職場であると確信しました。子ども達が夢中になって遊ぶ姿を園外の方から評価されることで、保育者の自信にもなったのです。育っている力について日常的に語り合うようになり、毎日の仕事に誇りと責任をもって楽しく勤めるといふ春風会の園訓にも沿った保育が行われています。今後も子どもたちや保護者が安心して通える温かい園作りを目指して研究に励んでいきたいと思えます。

農福連携はすばらしい
プラム

農福連携事業に取り組んで3年、令和4年度はその成果を出す年として、研究発表のテーマとして進めました。事業を進めていく中で、思いもよらない良いことが起きました。地域の方々や企業とのプロジェクトの結成し、「はちくぼ山麓つながるプロジェクト」としてスタート。県の補助も受け、ライ麦ストローのパッケージなど、デザインナーに委託して作成することができました。また、職員のアイデアから、残ったストローを使いヒンメリ(北欧の幸せを呼ぶ飾り)の製作へも進んでいきました。デザインナーはデザインだけにとどまらず、販売先や販売方法まで支援していただき、まさに「つながるプロジェクト」、静岡市の老舗雑貨店での展示販売も好調で、利用者の工賃向上にもつながっていました。また、このプロジェクトは、「ふじのくに美しい品格ある品づくり」として県知事表彰を受け、

プラムで製作したヒンメリ飾りを、県知事に直接手渡すこともできました。



プラムで取り組んできた農福連携が名実ともに実を結び、結果を出せたことは、職員一丸となって取り組んだことに、大きな手応えを感じています。

今後も、農福連携事業の素晴らしさを利用者とともに、そして地域の方々とのつながりを大切にしながら、この事業に取り組んでいきたい。

踏めば踏むほど強くなるライ麦のように、着実に一步一步、歩んでいきたいです。





あしたかホーム(巡回型)ホームヘルプサービス

あしたかホーム訪問介護は、令和5年4月1日より新たに定期巡回・随時対応型訪問介護看護部門が加わり、名称も「あしたかホーム巡回型ホームヘルプサービス」となりました。職員数も従来の5名から7名の体制になりました。

在宅のお年寄りを日中・夜間を通じて24時間365日支える目的で、一人ひとりの生活リズムに沿った訪問介護・訪問看護サービスを提供します。このサービスは①自宅での生活を出来るだけ長く継続できる。②退院・退所後の在宅復帰が円滑にできる。③状態変化の著しい方や安否確認が必要な方を見守りができる。④緊急対応をするので安心感を得られるなど、様々な効果が見込まれます。サービス内容としては、ヘルパーが一日に何回か原則として10～20分訪問する定期巡回訪問サービス、いつでも利

用者の相談を受け、訪問手配などを行う随時対応サービス、転倒・転落や急な排泄介助の対応を行う随時訪問サービスがあります。利用者一人ひとりに寄り添い、住み慣れた自宅での生活をサポートしていきます。



プレーグ訪問看護リハビリステーション

2025年問題をはじめとする少子高齢化は、大きな問題であり在宅医療が推進されている昨今では、急性期から慢性期まで入院という考えは改められ、入院期間を短縮するという国の方針も加わり急性期終了後は、入院継続ではなく在宅での医療へと変わっています。また、自宅にいながら診療を継続し最後の時までご自宅で過ごしたいというニーズの高まりもみられており、地域での在宅医療・看護の充実はより一層求められています。この沼津市でもその需要は高まっています。しかしながら、看護・介護を要する状態になると1人で看っていくことは至極困難を極めます。同居の家族が、離職を余儀なくされたり、ましてや1人暮らしの方は不安でいっぱいになることでしょう。介護を要する状態にならないことが一番ですが、いつ、どこで、誰がそのような状態になるかはわかりません。病気になるたくてなる方は殆どいないと思いますが、病気や障害を抱えながらも前向きに明るく一生懸命生きていらっしゃる方がたくさんいらっしゃいます。

私たちプレーグ訪問看護リハビリステーションの看護師・理学療法士は、そんな利用者やご家族の不安を少しでも取り除きながら、双方の想いに寄り添ったサービス(在宅で可能な看護・リハビリ)を提供できるよう常に心掛けています。こんな事を聞いても良いのかな?と思われる様な些細な事でも(たとえ雑談でも!)気軽に訊いていただいたり、遠慮なくご要望をいただきたいと思っております。そして、住み慣れた自宅での生活を安心・安全に過ごしていただける様に誠意をもってサポートさせていただきたいと思っております。

最後に、私達プレーグ訪問看護リハビリステーションは、看護師と理学療法士が協働し、地域医療に携わる方々と連携を図りながら、目配り・気配り・心配りをモットーにきめ細やかな質の高いサービスを提供してまいります。



ぬくもりの里 ホームヘルプサービス

障害者ヘルパー活動

ぬくもりの里ホームヘルプサービスでは、平成22年7月に障がい居宅介護、重度訪問介護の指定を受け、1件の訪問からスタートしました。平成23年10月には同行援護の指定も受け、視覚障がい者のガイドヘルパーも始めました。また、屋外で移動が困難な障がい者に対してマンツーマンで外出の支援もする、移動支援も伊豆の国市と契約しています。今までは約6割が介護保険関係、約4割が障がい関係の支援となっており、そのうち数名は介護保険と障がいサービスを重複して利用し、在宅での生活が継続できています。年代も幅広く20歳の利用者は、月に1~2回椅子の国市からサントムーンやららぽーとなど、ヘルパーと一緒に外出し、買い物を楽しんだり、美容院に行ったり、朝から夕方までの支援をしています。この場合は居宅介護の身体介護で、自宅で移乗や着替え等準備し、外は移動支援、帰りは家で着替えや水分補給等の身体介護と、サービスを組み合わせて

支援をしています。中には難病の方で介護保険の不足する枠を障がいの身体介護で補い生活されている利用者もいます。現在、一番利用期間が長い利用者は契約当時26歳で現在38歳と、12年支援をしています。支援事業所等の変更なく安定して続いています。このように障がいの利用は長い年月を掛け支援が続くケースが多いです。障がいの相談支援事業所8か所、介護保険のケアマネジャーが関わるケースが7名から、訪問の依頼を受け利用者は28名。これからも利用者にとって暮らしやすいサービスの組み合わせや、今まで培ってきた介護技術や知識を活用し、在宅での生活の継続を支援していきたいと思えます。



第12期
EPA介護福祉士
候補生3名

令和4年度 介護福祉士国家試験に 見事合格！

春風会では、現在、9名のEPA（経済連携協定）介護職員が介護福祉士候補生として勤務しています。EPA介護職員は、在日中の5年間に介護福祉士国家試験に合格しなければならず、資格取得ができない場合には帰国しなければなりません。令和4年度の第35回介護福祉士国家試験において、2019年12月より就労を開始した第12期の3名のEPA介護職員が試験に合格し、介護福祉士資格を取得しました。

第35回試験においては、全国のEPA介護福祉士候補生受け入れをしている333施設の595名のEPA介護職員が試験に合格し、その合格率67.3%でした。

3名は今年4月より法人の常勤職員雇用となりました。法人では、令和5年12月にも5名のEPA介護福祉士候補生の受け入れを予定しています。3名にはこれからも来日する介護福祉士候補生のよき先輩としての活躍を期待しています！

石川理事長へ合格報告をする3名



プレーグおおひと勤務
HEMA YANTI MANJK（インドネシア）
PUTRI RIZKI WIDASARI（インドネシア）



みはるの丘浮島勤務
NI NYOMAN ALIT RIANI（インドネシア）

私、昔こんな仕事していました。

みはるの丘浮島 入居
二階東棟 伊藤 弘子様



沼津市生まれ。5人兄弟の2番目。

中学校卒業後、富士急行の定期バスで、バスガイドをしていたそうです。ここでは、切符の確認、停留所の確認等の仕事を行っていました。



お客様に言われて嬉しかったことは？の問いに、「声が良いね。接客が良い。」等、お客様にお声を掛けてもらった事です。大変だったことは特になく、充実した仕事を送っていたとのこと。

その後は、旦那様が運送会社を設立し、その手伝いを行

いました。自身も2トントラックを運転し配送業をしていました。いちばん大変だったことを聞くと「やっぱり、荷物を積んだり、下ろしたりが一番大変だったね。」と本人談道を感じることに。に関しては、「そんな苦じゃなかった。すぐに覚えられたよ」と。配送業を行っていて良かったことは？の問いに、「お父さんの仕事を手伝えたことかな」とおっしゃっており、「お父さんの事は好きですかの問いに「お父さん、大好きだよ」と笑顔で答えて下さいました。普段も優しい声で、穏やかな弘子様。これからも健康で元氣よく過ごしていただきたく願っております。今回は色々答えて下さり、ありがとうございました。



四月六日、あまぎ認定こども園で入園式が行われました。

あまぎ認定こども園ではひよこ組(〇歳児)三人、あひる組(一歳児)二人、りす組(二歳児)一人、うさぎ組(三歳児)三人の計九人に転園してきた四人を加えた十三人が新しくこども園の仲間になりました。

なかいず認定こども園ではさくら組(〇歳児)一人、ちゅうりっぷ組(一歳児)三人、つくし組(二歳児)二人、すみれ組(三歳児)二人、の計八人が新しくこども園の仲間になりました。

両園とも新入園児の呼名のあと、園長の話、職員(あまぎ)年長児(なかいず)からの歌のプレゼントなどで新入園児を歓迎しました。

入園当初は新しい環境に戸惑っていた子どもたちでしたが、今では園に慣れ、毎日元気に過ごしています。



みはるの丘浮島では、施設でお看取りをしたご遺族様にアンケートを実施しています。鈴木政春様、ご遺族様より一部、ご紹介します。

——みはるの丘浮島で、最期を迎えたことについてどのように思っていますか？

毎日何回も主人と会えて良かったです。段々、衰えていくのがわかり辛かったですが、夫の死を覚悟できました。

親類も主人は皆会えました。皆最後に会えて良かったと言っていました。

——ご本人と、またご家族同士で、ゆつくりお話しする時間がありましたか？どんなお話しをされましたか？

おじいちゃんの病气前の事、孫達の幼稚園の送迎バスの引き渡しの事、好きな食べ物などよく話しました。

——看取るまでの間、不安や困ったことなどの気持ちを相談できる方はいらっしゃいましたか？

お寺夫婦（兄弟以上の人）に相談をしました。お寺夫婦も亡くなるまで毎日来てくれました。

——医師・職員（看護師・介護士）からの説明は充分でしたか？

充分でした。

——職員にもっとしてもらいたかったことがありますか？

また、職員のケアや態度等で気になったことはありませんか？

良くしていただきました。

——その他気づいた事・印象に残った事・不思議な出来事などがありましたか？

主人が亡くなって夜中に長女とホームに伺い「政春さん、頑張ったね、お家に帰ろうね」と言って帰宅しましたが眠れず横になっていました。が早朝我が家の猫が主人のベッドのあった場所（枕のあったあたり）をジーンと5分位身じろぎせず見ていました。「お父さんが来たのかな、お母さんが帰ろうって言ったから」と長女が言いました。生前、主人がよく猫に刺身をあげていました。

——ご遺族様の想いをしっかりと受け取り、今後より良い看取り介護を行っていただくための励みにさせていただきます。

アフターコロナの施設の取組み

長らくコロナ禍にあり、様々な制限を設けたあしたかホームとプレーゲあしたかの特養ですが、少しずつコロナ以前の日常が戻りつつあります。まず第一に取り組んだのは、家族面会の緩和です。予約制で1週間に1回程度、1回30分ほどの面会をしていただいています。今後面会回数の増加など、より面会の緩和ができればと思います。また今年度は、3年ぶりに家族会の奉仕作業や会食会も予定していますので、入居者と家族との交流の場が増えるよう取り組んでいきます。プレーゲあしたかでは、お年寄りや託児所の子どもの交流も再開しています。

地域との交流・絆についても再構築を図っていきます。ボランティアの受け入れを順次行い、また納涼祭、ホーム祭り、餅つきなどの行事や総合防災訓練にも地域の方に参加していただけるよう準備を行っていきます。納涼祭

あしたかホーム プレーゲあしたか

に向けては、新規採用職員がエイサーを披露するため、練習を開始しています。またプレーゲあしたかは、開所10年目にあたり、9月に10周年記念式典を予定しています。今後の感染症の状況にもよりますが、施設・家族・地域が協力をして入居者の生活を支えられるよう職員一同邁進していきます。





谷岡 夏帆 (たにおか なつほ)
はらデイサービス／介護士
常に利用者様方と同じ目線に立ち考え、思いやりのある親切で丁寧な対応を心掛け、目配り・気配りを大切に利用者様方と関わっていきたいです。

令和5年度

新規採用学卒職員のご紹介



令和5年4月1日付け採用の新規学卒者を紹介します！
(氏名・配属先及び職種・職員としての抱負)



杉山 咲蘭 (すぎやま さら)
ニューあしたかホーム／介護士
私のチャームポイントの笑顔
を忘れずに連携し合っ
て利用者様の日々のサ
ポートを行って行きたい
です。



佐藤 由菜 (さとう ゆうな)
あしたかホーム／看護師
いつも笑顔でケアや関わり
を行い、利用者様一人ひと
りに信頼され、頼ってもら
えるような看護師を目指
していきたいです。



遠藤 渚 (えんどう なぎさ)
なかいず認定こども園／保育職員
子どもたちと気持ちに寄り添
える保育士になり、保護者
と信頼関係を築き子どもの
成長と一緒にサポートして
いきたいです。



渡邊 羽音 (わたなべ はのん)
ぬくもりの里／介護士
利用者様、お一人おひと
りに寄り添いつつ、笑顔
を届けられるようなそ
んな介護士になれるよ
うに頑張りたいと思
います。



松永 娃音 (まつなが あのん)
伊豆中央ケアセンター／介護士
私は、利用者の立場にな
って物事を考えられる
介護士になりたいです。
また、笑顔での介助を
心掛けます。



大木 萌夢 (おおき もえむ)
みはらの丘浮島／介護士
利用者様やご家族の方
から「みはるに来て良
かった」と思って頂け
るよう、親切で丁寧な
介護を心がけたいです。
また、行事や研修など
沢山の事に挑戦したい
です。

新施設長の紹介

春風会では令和5年4月より2名の新施設長が赴任しました。



あおばの家
安河 章央 施設長

4月よりあおばの家・なぎの家の施設長になりました、安河章央（やすかわ あきお）と申します。障がい施設は初めての経験です。それまでは、医療・福祉を含め、介護保険施設での経験が22年になります。経験のない環境で一步を踏み出すことに新たなやりがいを感じています。幸い職員が暖かく協力的なので心強いです。また春風会の職員の層の厚さを実感しております。利用者は今のところ興味を示してくれているので、チャンスと思ってコミュニケーションを図っています。今後は、保護者会や外出レクを通じて、家族とのコミュニケーションも図りたいと思います。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。



あまぎ認定こども園
工藤 菜穂子 園長

当園は複合施設という他にはない特色があります。開園当初より天城デイサービス、プラムとの交流を重ねてきましたが、最近子ども達のふとした会話の中に、お年寄りやプラムの利用者さんへの気配りが感じられることがあり、感慨深いものがあります。コロナ禍で直接ふれあう交流は中断していましたが、今年は戸外での交流から少しずつ再開していく予定です。3施設合同のイベントや、静大サテライトの学生主催のイベントなども計画中です。当園でなければできない体験と、そこから得る心の育ちを大切にしていきたいと思えます。

令和5年 特別表彰・永年勤続表彰

特別表彰者

春風会では多年にわたり施設の発展に貢献した職員に対し特別表彰を行っています。令和5年は以下の2名を表彰します。



ニューあしたかホーム介護副主任 内田 倫子
ぬくもりの里事務課長 長島 浩子

あしたかホーム関連エリア

- [45年]** 石川三義
- [30年]** 福島恵子 **[25年]** 佐野光正
- [20年]** 青野智子・高橋奈央子
- [15年]** 小清水清美・萩原美津子・佐野美恵・
多家鉄平・庄司幸雄・渡邊学・神戸孝宜・
鈴木直美・林美幸・小野絵梨・中澤正司
- [10年]** 廣中暢介・天野美幸・安達峰子・齊藤梓・
櫻木宣代・林美里・雨宮敏子・古河俊平・
矢ノ下彰一・藤井典子

伊豆中央ケアセンター関連エリア

- [25年]** 伊賀恭子・山下百合江・小柳出貴子
- [20年]** 小出江美
- [15年]** 五十嵐理恵・渥美祥子・杉山瑛乃・鈴木ひろみ・
森直子
- [10年]** 小川奈津子・橋詰明日香・坂庭美咲・力石雅世・
鈴木苑子・鈴木裕美

ぬくもりの里関連エリア

- [25年]** 大島健司・北澤琢郎
- [20年]** 西山美智代・勝又美紀・加藤富由子・
西島みゆき
- [15年]** 山田幸弘・鈴木明美・佐藤隆文・西村知之・
近田あけみ・山口亜美
- [10年]** 渡辺忍・川井博美

みはるの丘浮島関連エリア

- [20年]** 長田直樹・成川輝紗
- [15年]** 杉山陽亮・本多良
- [10年]** 武藤智美・鈴木美希・大原千布・小長谷美穂・
笠井楓・野村郁枝

沼津市立高尾園関連エリア

- [25年]** 加藤博士 **[15年]** 宮代祐美代・増田洋一
- [10年]** 山本竜司

社会復帰サービス 居宅生活訓練
を利用した地域への架け橋

高尾園では、入所者が社会復帰する為の『居宅生活訓練』を毎年、行っており。これは、アパートから施設に通所して金銭・服薬・体調の管理を自身で行い、買物や調理等の家事全般をして生活力を習得するための事業です。

昨年度この事業を利用し、高尾園を退所したTさんの「今」をご紹介します。

インタビュー当日は晴天に恵まれTさんの住まいの近隣にある子供たちが遊ぶ公園で応えてくれました。

Q「今、どんな生活をしていますか」
Tさん「薬や食事を世話人さんに見てもらえるグループホームに住みながら、午前、内職先へ就労し、午後は無理しないで買物をしたり休んだりしています。」

Q「居宅訓練をして良かったことは」
Tさん「家事などは、練習になって良かった。特に家事やお金の管理が今に活きていると思います。買物は

どこで買うか、これは、あの店で買った方が良いとか大変です。」

Q「今後の目標は何かありますか」
Tさん「高尾園の仲の良い人と会えなくなってしまうましたが、同じグループホーム内で友達もできて楽しいです。いずれは一人暮らしをしていきたいですね」

もともと真面目で頑張りすぎて体調に影響を与えてしまうTさんでしたが、高尾園を退所後は現状の課題を自覚し、今の生活を自分らしく、楽しく、地域の一員として過ごしている様子でした。



Feグッズのご紹介

もくせい苑で制作・販売しているFeグッズについてご紹介します。『Fe』とは、もくせい苑を利用して石井鉄兵さんのペンネームで、鉄兵さんが描いたイラストをプリントして制作しているグッズのブランド名にもなっています。Feグッズは昨年度よりインターネットショップで販売を始め、いよいよ全国区となり、遠方の方より注文を頂いています。昨年10月

に行われた「ふれあい広場（伊豆の国市、保健センター）」に出店した折には、Fe画伯本人がたまたま会場にいた為、ファンの方が鉄兵さんを見つけ「一緒に写真を撮って下さい！」と頼まれてしまうほどの人気です。今年度もたくさんのイベントに参加し、Feグッズを広めていきますので、皆様ネットショップやイベントなどは是非お越し下さい。

CYCLE BALL seasonIV（かのいち・いずいち）の完走記念品として、Feブランドのトートバッグが採用され、日本競輪選手養成所様より注文を頂いています。



(株)スリーパンズの全国で開催される「福祉のマルシェ」や、静岡特産品のテーマパーク『しずパレ』ふじのくに福産品にてFeグッズを取り扱っています



しずパレ
QRコード

沼津市愛鷹地区での移送支援の取り組み



「外出しなくなり、物忘れが進んだ。」等の相談が日常的に入りま
す。「高齢者の移動を支援する仕
組みが必要」という地域課題を把
握したため、令和3年度から当セ
ンターと生活支援コーディネー
ター(市社協)が協力し、地域の代
表の方が参加する「協議体」でご
意見をいただきながら、取り組み
を進めています。

最初の取り組みとして、「住民
へのアンケート調査」を実施し
ました。ニーズ把握だけでなく、
準備・実施・報告の過程の中で
取り組みの必要性を周知し、運
転をしている方にも「将来の自
分事」と捉えてもらえるように
働きかけました。様々な団体にご
協力いただき、335人から
回答がありました。結果を集約

愛鷹地区は
東西南北に広
く、車の運転
が欠かせない
地域です。セ
ンターには、
運転をやめた
ことで「移動
手段に困る。」

すると、「買い物」「通院」等の
生活に不可欠な行為は、「タク
シー」や「家族の送迎」等の自
助的な代替手段により、機会が
確保されやすい一方で、「スポー
ツ・趣味活動」「友人との交流」
等の機会が減少しやすい傾向が
把握できました。

今後はプロジェクトチームを
立ち上げ、「活動・参加」「他者
との交流」への移送支援を中心
として、内容を検討していく予
定です。当センターとしても引
き続き、この取り組みをサポート
していききたいと考えています。



あしたか地域包括支援センター

安全運転管理推進事業所に指定



ケアセンター職員や交通安全協
会大仁地区支部会員など30名ほ
ど参加しました。大仁警察署長
より管内では交通事故件数が減
少していますがコロナ後の活動
増加に伴い交通事故増加が心配
されることでした。スズキ
販売自動車静岡様には安全運転
サポート車、日産プリンス静岡
販売様には自動駐車システムの
体験をさせて頂きました。サポ
カーの機能を体験し、安全に車
を運転するための選択肢の一つ
として考えていきたいと思いま
す。

伊豆中央ケアセンターは令和
5年度大仁警察署管轄地区の安
全運転管理推進事業所に指定さ
れ、大仁警察署にて駿東伊豆消
防本部田方中署より引継ぎ式を
行いました。今年度一年間、施
設全体で交通安全に向けての研
修や活動に取り組み、安全運転
や事故防止に尽力していきます。
5月11日には伊豆中央ケアセ
ンターにて安全運転サポート車
を活用した交通安全教室を大仁
警察署や日本自動車販売協会連
合会静岡支部、交通安全協会の
方々に協力して頂き、伊豆中央



伊豆中央ケアセンター

令和
4年度

苦情・要望等受付状況報告

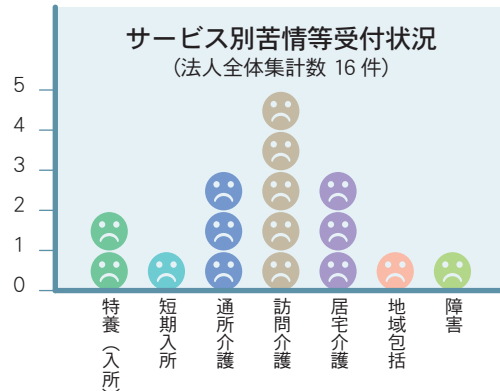
コミュニケーション
こそが一番大事!!

令和4年度の法人の各施設に寄せられた要望・意見や苦情等は、法人全体で16件でした。例年に比較し、苦情件数は半減しておりますが、昨年度も一昨年度に引き続き、コロナ禍による特養の家族面会の一部制限や在宅サービスの一時休止をさせていただきましたので、その影響もあってご家族やからの苦情は少なかつた状況であると思われ、額面通りの件数を鵜呑みにしてはいけません。

昨年度受付をさせていただいた苦情の多くは訪問サービスやケアマネジャー等の在宅サービスに対する内容が多く、相互の情報共有不足や確認不足などの行き違いによる苦情がほとんどであると思えます。特に、ケアマネジャーやサービス提供をする施設職員の想い・考え方や利用者や家族の想い・考え方の食い違いによる意見が多く寄せられ、利用者本人とのコミュニケーションを図ることは大事ですが、家族とコミュニケーションも十分に図り、課題を共有して意見交換を

することで、多くの苦情・要望は未然に問題化を防ぐことが出来たのではないかと思います。

コロナの影響ではなく、本当に苦情・要望が少なくなったね！と言えるよう、私たちは、利用者・ご家族との信頼関係構築に向けてこれからも取り組んでいきたいと思えます。



あしたか
ホーム

愛鷹地区社協ボランティアの会『ほほえみ』グループより認知症マフの寄贈

あしたかホームでは、愛鷹地区社協ボランティアの会『ほほえみ』グループより、認知症マフの寄贈を受けました。マフは筒状のカラフルにデザインされたニット製品の中に毛糸玉などのアクセサリが付けられています。

認知症の方の落ち着いた手を穏やかに温かく保ち、筒の中の毛玉などを触ってその感触を楽しむものです。誰もが見た瞬間、手にした瞬間に笑みがこぼれ、和らぎ、話題が広がっていくことを期待して『ほほえみマフ』と名付けたそうです。

ありがとうございました。



- 春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566
- 特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 伊豆市大野304
TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297
- 特別養護老人ホームぬくもりの里
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-29
TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511
- 特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385
- 障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566
- 障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429
TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702
- 障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47
TEL・FAX (0558) 76-6755
- 原高齢者福祉センター
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511
- ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380
- 天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽根47
TEL (0558) 87-1080
- 中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-2911
- 救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市高尾156-1
TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723
- ケアハウスはるかぜ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3385
- 小規模多機能施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860
- 地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか
小規模多機能型居宅介護支援事業所
〒410-0302 沼津市東椎路1639-1
TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401
- 地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299
- 障害サービス グループホーム なぎの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL・FAX (0558) 77-1017
- 地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293
TEL・FAX (0558) 77-1221
- 複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1
- あまぎ認定こども園
TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8880
- あまぎデイサービス(デイサービス一般型)
TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)
TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201
- プラムカフェ
TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201
- 片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177
- 伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2414 伊豆市本立野531-1
TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302
- なかいず認定こども園
〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811
- はら居宅介護支援事業所
〒410-0311 沼津市原町中2-7-11
TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334